

# 馬場ひでゆきの活動日誌

## No.12

寒い日が続きます。1月16～17日は上越地域の病院視察をしました。22～24日は、県議会総務文教委員会の県外視察で兵庫県、広島県を訪問しました。

### 病院と意見交換

1月16日～17日、梅谷守衆院議員の呼びかけで、県議、市議の有志が上越地域の病院を訪問しました。県が進める地域医療再編対策などについて意見交換しました。

④上越総合病院では、籠島院長が対応してくれました。同院長の発言の骨子は次のとおり。

○医師の働き方改革、人口減少などで、地域の持続的な医療を確保するためにも病院の機能再編が必要だ、

○若い医師が勤務先として選択できるように高度医療に取り組める基幹病院をつくるのがいい、

○そのためには、党派を超えて支援してほしい、地元住民の皆さんの協力も必要だ。

※ 参加者からの「行政に望むことは何かあるか」との質問に、

同院長は、「まず、教育に力を入れること、若い人の雇用の場を確保すること、若い人が集まるところに医師も集まる」と回答しました。

※ 同院長の意見には、医師獲得が全国の自治体間の競争になり、

競り負けるのではないかと思う一方、よりよい医療体制の確保のためにも普段から医療機関と地元住民とが対話をしていくことは必要と思いました。

④新潟労災病院では、傳田院長が対応してくださいました。同院長からは、  
○ここ数年の医師不足による診療機能の低下、経営状態の悪化（平成28年度以降は毎年10億円

以上の大幅赤字）で、経営状況改善の見通しが立たず、病院運営の継続が困難なことから、閉院の決定に至ったこと、

○閉院の時期は、上越地域医療構想調整会議で関係者間で議論され、労災の診療機能の移行が少なくとも2年程度必要になることから決まったことだ、との説明を受けました。

意見交換では、三条地域で設立予定の基幹病院も、スタッフの募集が進んでいないとの話になり、実際にスムーズに診療機能を移行させるのは難しいのではないかと意見も出ました。

1月17日は、県立妙高病院、けいなん病院を訪問しました。

④妙高病院では、少子高齢化・人口減少から持続可能な医療体制確保のために当病院の入院機能をけいなん病院に集約せざるを得ないのではないかと説明がありました。その一方で、参加者からは、観光地で病院がないと観光客や学生合宿などを呼び込むことはできないのではないかと疑問が出されました。

④けいなん病院では、医師確保の具体的な方法、数年前に透析専門の地元の個人医院が閉院となった際に透析治療の受け皿体制をつくるためにどのような課題があったのか、などについて意見交換をしました。

### 上越地域の医療を守る会結成集会

1月19日は、直江津のレインボーセンターで「上越地域の医療を守る会」の結成集会が開催されました。

新潟労災の閉院の方針が示さ

れた状況下で、直江津地域に総合的な病院が不可欠であるとして、病院機能存続と上越地域における医療スタッフ不足の解消を県に求めていきます。私も同会の呼びかけ人の一人です。頑張ります。

### 県外視察で兵庫、広島へ

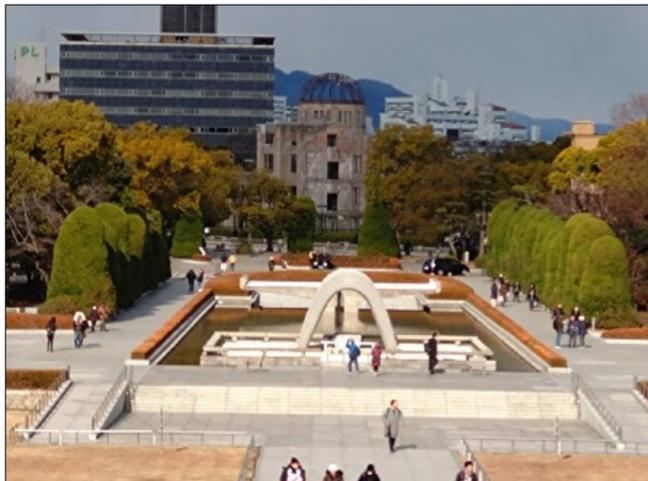
1月22～24日、新潟県議会の総務文教委員会の県外行政視察で兵庫県、広島県を訪れました。

（1月22日）●神戸大学・ウェルビーイング研究の推進、●神戸市議会・データ分析に基づく政策立案の推進

（1月23日）●兵庫県議会・兵庫型学習システムについて、●広島平和記念資料館、●広島県議会・県・市町共同のデジタル人材確保・育成について

（1月24日）●広島県教育委員会・適応指導教室「School 1「S」」の施設見学

※ 視察の概要は後日報告します。※ 平和記念資料館は、大学生の時に訪れて以来の数十年ぶりの再訪です。放射能被害が人体に数十年或いは世代を超えて及んでいくことを思い知らされました。



平和記念資料館から、平和公園、原爆ドームを望む

# 派閥裏金事件・何が問題か？

自民党の安倍派などの派閥が、自ら主宰した政治資金パーティーで得た収入の一部を報告書に記載せずに議員にキックバックし、それを受領した議員も収入として記載しなかったことで、派閥の会計担当職員や一部の政治家が政治資金規正法違反（虚偽記入罪）の罪に問われました。何が問題なのかを考えます。

## ○動機に酌量の余地なし

報道によれば、派閥出身の国会議員には政治資金パーティー券（1枚2万円）のノルマがあり、当選回数を重ねるほど枚数も増える仕組みになっているとのこと、安倍元首相ですら、販売ノルマに苦しめられたと自嘲しています（新潟日報1月22日付「悪弊 自民党裏金事件」）。

販売ノルマ超過分がキックバックされ、しかも収支報告書に記載しない裏金になるのであれば、それは、議員にとってパーティー券を売りさばく魅力的な動機づけになります。

同記事は、還流された裏金が「政治資金報告書に記載したら

票が減るような「高級クラブや料亭の支払い、或いは政治活動の人件費に充てられていったこと」を紹介しています。

つまり、政治には金がかかる、そのお金の流れを見せしてしまうのは都合が悪いというわけです。しかし、民主主義政治というのは国民のための政治であり、議員は国民の代表者です。国民が、自分たちの代表者が収入をどこからもらい、どんな活動に支払いをしているのかは知っていて当然です。

こういう議会制民主主義の観点から、政党や政治家が政治資金の収支の状況を国民の前に明らかにすべきと定めたのが、政治資金規正法です。政治資金パーティーによる裏金づくりには酌量の余地がないのは明白です。

## ○政治資金・パーティーの本質

平成11年に行われた政治資金規正法の改正により資金管理団体に對する企業などからの寄附が禁止されました。その後、寄附にかわる政治資金の調達手段として政治資金パーティーが多

く開かれるようになったと言われていました。パーティー券は実質には企業献金です。

しかし、政党（日本共産党を除く）は、政党助成法により、毎年多額の政党助成金を受領しています。同法は、リクルート事件やゼネコン汚職事件などで、企業の政治家への資金提供が問題視されたため、企業の政治献金を制限する代わりに、政党に對し国が助成を行うことを目的に制定されたものです。

助成金も受領する、パーティー券収入も取得するでは、まったく政治改革の理念が台無しです。しかも、パーティー券購入者の支払いが20万円以下であれば、収支報告書に支払者の名称などを記載する必要がありません。そのため、政治資金パーティー収益のうち、公開された企業などの献金額の割合は10%未満と言われています。つまり、政治資金パーティーが隠れた企業献金の抜け道になっているのです。

## ○派閥の解消は意味がない

自民党は、派閥の解消を打ち出しました。しかし、派閥解消をしたとしても、裏金を得たいという要求がある限り、また形を変えた裏金づくりを考えるだけだと思います。政治の土壌を根っこから変えていく必要があります。時間のかかる課題です。

## Coffee Break

山下智久のNHKドラマ『正直不動産』が帰ってきました。彼の演技を観てると不思議と笑えて気分が楽になります。

彼が演じるのは永瀬財地、不動産会社のナンバーワン営業マン。顧客には適当なことを言って成約にこぎつけます。「라이어（ウソつき）永瀬」とも呼ばれていましたが、ある日、突然ウソがつけなくなります。彼がウソをつこうとしても、どこからか風が吹いてきて、ホントのことを言うてしまうのです。

自民党派閥の政治資金パーティー裏金問題の捜査も終結してしまいましたが、関与したはずの国会議員の口が重く、私たちにはさっぱり真相がわかりません。

こんな時、『正直不動産』の永瀬に吹いた風が、議員たちにも吹いてくれないかなあと思います。「政治にカネはかかるんです!」「高級料亭で会食してしまいました」とか、真正直なことを言うのも、長い目でみれば、議員たちにも決してマイナスではないと思うんですが（もちろん、私も地方議員の端くれ風が吹かなくても正直に頑張ります）。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所

住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号

ダイヤパレス高田式番館2階

電話 025-546-7110

ファックス 025-546-7666

メール kengi-babahideyuki@wind.on.ne.jp